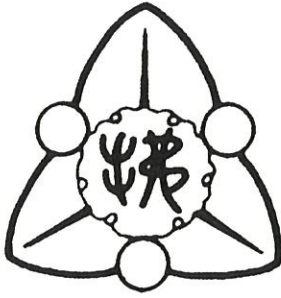


男鹿市立払戸小学校



●校章の由来

校章の三方は三部落を表象し、
 蛭のように。
 —その光はやはり三つ。中央は鏡。
 —教育は澄みきった人の心をつくるもの。
 くもりのない払戸小に



- 開校年月日 明治10年 9月18日
- 学校所在地 秋田県男鹿市払戸字渡部22
- 電話番号 0185-46-2510

男鹿市立払戸小学校校歌

あさのひかりが ぎんいろに ほろろうがたを てらすとき
 かぜはたんぽを さわ-や かな めぐみのほみと
 そよがせて ゆくて ののぞみを こ-の まど
 に またあ たらしく もってくる ふ、と
 しょう ふ、としょう たのし いまなび や

●校章制定

昭和3年10月29日

●校歌制定

昭和32年11月3日

●校章のデザイン・アイデア

高橋 茂吉 大淵 太郎蔵
 海道 一郎 (合作)

●校歌の由来

広がる美田に八郎潟と寒風山を配して美しい自然をうたいあげ、その中に学ぶ喜びを表す。開拓の主たる渡部翁を仰ぎ、高鳴る松らいと「勤労、素直さ」それに「協力」をうたいあげた。1番は開き進む郷土、2番は平和協力の郷土、3番では渡部神社の松らいを昔の歴史を語るものとして表している。

校歌

作詞 工藤 義雄
 作曲 海峰 美雄

一 朝の光が 銀色に
 八郎潟を 照らすとき
 風はたんぽを さわやかな
 恵みの波と そよがせて
 ゆくての望みを この窓に
 また新しく もつてくる
 払戸小 払戸小 たのしい学びや

二 夕べの雲が あかあかと
 さむかぜ山に 映えるとき
 風はたんぽを ゆるやかな
 平和の波と そよがせて
 はたらき学ぶ よろこびを
 いつも豊かに もつてくる
 払戸小 払戸小 たのしい学びや

三 風に高鳴る みやしろの
 松の緑を いつまでも
 栄えある歴史と 仰ぎ見て
 心すなおに 勤労の
 汗をよろこび とともに
 力をあわせ 励もうよ
 払戸小 払戸小 みんなの学びや